

外国語で読む源氏物語

～本学専攻語より～

英語

- 1) The tale of Genji / Murasaki Shikibu ; translated by Arthur Waley
- 2) The tale of Genji / Murasaki Shikibu ; translated with an introduction by Edward Seidensticker
- 3) The tale of Genji / Murasaki Shikibu ; translated by Royall Tyler

1925年から1933年にかけて、イギリスの学者アーサー・ウェイリーによる翻訳が The Tale of Genji としてロンドンで出版されました(1)。原文に忠実というより翻案が多く、大胆な意識と評されるウェイリー訳ですが、そのことによって文学的な質の高さを得て、英語圏で広く受け入れられたとも言われます。

その後、1976年にエドワード・サイデンステッカーによる翻訳が出版されました(2)。サイデンステッカーは川端康成など日本文学の翻訳や海外への紹介につとめたことで知られる人物です。サイデンステッカー訳は、ウェイリー訳では省かれた箇所を含めた全訳で、源氏物語の重要な構成要素である和歌の部分も訳されています。

さらに2001年にはロイナル・タイラーによる全訳が出版されます(3)。原文を生かし、それを補うように豊富で緻密な注釈をつけていることが特長です。たとえば、源氏物語の登場人物は官位などによって文中での呼称が変化しますが、それをそのまま訳し、脚注で「即ち誰それである」というような説明をしています。また祭礼や装束など当時の文化についての説明も多く、知識のない人が物語を読み進める助けになっています。

ロシア語

Повесть о Гэндзи : Гэндзи-моногатари / Мурасаки Сикибу ; перевод с японского Т. Соколовой-Делюсиной / Наука 1991

当館所蔵のロシア語版『源氏物語』は、ロシアで有名な東洋学者タチヤナ・ソコロワ-デリューシナさんによって翻訳されました。彼女は源氏物語だけでなく、世阿弥の謡曲、松尾芭蕉といった古典文学、俵万智、中上健次、島田雅彦といった現代文学まで幅広く翻訳活動を行っています。完訳版『源氏物語』が完成するのに15年の歳月が費やされました。この翻訳の功績が認められ、翻訳者のソコロワ-デリューシナさんは平成5年には国際交流基金より国際交流奨励賞を受賞しています。

展示の5冊は本編4冊、付録1冊から構成されています。本編は本文のない第41帖「雲隠」を除いた54帖すべてが順に収められています。付録には平安時代の時代背景、社会、生活、文化などについて解説されています。本文をよりよく理解するために、最初にこの付録を読むことが推奨されています。

ちなみに、本学教員であるリュドミーラ・エルマコワ先生も『源氏物語』翻訳に際してアドバイスなどで援助をした一人で、謝辞の中に名前が挙げられています(第1巻、5ページ)。

中国語

『源氏物語』上中下 / 紫式部著；豊子愷訳（人民文学出版社，1980-1983）

この本は『源氏物語』の現代中国語訳です。第1帖「桐壺」から第54帖「夢浮橋」までが、上中下全3巻に翻訳されています。この訳本の興味深いところは、和歌と巻名の訳し方と言えます。

和歌は、原文の意味を表現した上で、韻を踏んだ漢詩に訳されています。訳すときに意味と音の両方をうまく生かすのは非常に難しく、翻訳者である豊子愷の高い詩才が伺えます。

巻名は、多くが直訳となっていますが、例えば第9帖「葵」を“葵姫”、第42帖「匂兵部卿」を“匂皇子”とするなど、読者である中国人が理解しやすいように工夫がされています。

また、第41帖「幻」の巻名ですが、“魔法使”という、一見不思議な中国語訳がつけられています。この「幻」は、「光源氏」が亡き「紫の上」を思いながら時を過ごし、最後に亡くなる場面ですが、なぜ「幻」が“魔法使”になるの?...、と思ってしまうませんか？

実は、古語の「まぼろし」は、現代語と同じ「幻影」以外に「仙術を使う道士」も意味しますので、こちらも直訳となっています。ちなみに、「幻」という巻名は、「光源氏」が第41帖「幻」のなかで詠んだ「大空をかよふまぼろし夢にだに見えぬ魂の行く方たづねよ」という和歌からとられています。

スペイン語

- 1) Genji Monogatari (Romance de Genji) / Murasaki Shikibu ; traducción Fernando Guiérrez
- 2) La novela de Genji / Murasaki Shikibu ; versión, comentarios y notas Xavier Roca-Ferrer
- 3) La historia de Genji / Murasaki Shikibu ; edición Royall Tyler, traducción Jordi Fibla

『源氏物語』のスペイン語版は、抄訳も含め現在4種類刊行されています。当館ではそのうちの3種類を所蔵しています。いずれも英訳からの重訳です。

1)は初のスペイン語訳です。フェルナンド・グティエレスによる訳で、「桐壺」から「葵」までの9帖のみ収録されています。1941年に初版が刊行され、1992年に復刊されました。その後出版社を変えながら刷を重ねています。英訳ウェイリー版(1925-1933)を底本としながら、仏訳キク・ヤマタ版(1928)を参考にしたとされています。

2)はハビエル・ロカ=フェレールによる訳で、デスティエーノ社から2005年から2007年にかけて刊行されました。底本は英訳ウェイリー版です。「esplendor(絶頂)」と題した第1巻(「桐壺」から「藤裏葉」まで)と「catastrofe(破局)」と題した第2巻(「若菜(上)」から「夢浮橋」まで)で構成されています。解説および登場人物紹介も収録されています。初版・改訂版が刊行されており、当館ではいずれも所蔵しています。

3)はホルディ・フィブラによる訳で、アトランタ社から2006年に出版されました。英訳タイラー版(2001)が底本です。「桐壺」から「雲隠」まで収録した第1巻と、「匂宮」から「夢浮橋」まで収録した第2巻からなります。英語版と同様に注釈・図版が豊富です。